

第5学年1組 外国語活動学習指導案

平成31年2月13日(水) 5校時

指導者 T1 HRT 河原 史博

T2 AET 山本 裕子

場所 5年1組教室

1 単元名 友達や先生のできることを紹介しよう(WC! 1 U5 :She can run fast. He can jump high.)

2 単元目標

- ・「できる」、「できない」の表現を使って、進んで会話したり、紹介したりしようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・自分や第三者について、できることやできないことを尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

- ・「he」と「she」の違いや、文字には音があることに気付く。 【言語や文化に関する気付き】

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
「できる」、「できない」の表現 を使って、進んで会話したり、 紹介したりしようとしている。	自分や第三者について、できる ことやできないことを尋ねた り、言ったりする表現に慣れ親 しんでいる。	「he」と「she」の違いや、文字 には音があることに気付いて いる。

4 言語材料

○Can you (sing well)? Yes, I can./ No, I can't.

[I/You/He/She] [can/can't] [sing well].

Who is he/she? What can you do?

○動作 (play [the recorder/the piano], ride a [bicycle/unicycle], swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well), can, can't, he, she, Mr., Ms., net, omelet

5 基盤

(1) 児童の実態

〈個人情報保護のため省略〉

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領の改訂に伴い新たに加わった三人称「he」と「she」が位置付けられており、自分や第三者のできることでできないことを伝え合ったり、発表したりする内容を扱っている。

これまで「I」と「you」について扱ってきたが、初めて第三者である「he」と「she」の表現に出会う。「I」と「you」のみで思いを伝え合ってきた児童が、三人称を使って、自分の身近な家族や友達の話ができるので、児童の表現の幅が広がる単元である。

そのため、自分のことだけでなく、自分が相手に伝えたいと思う様々な人を話題にすることでコミュニケーションが広がる。そのことで、より活発なやり取りや発表が期待できる。その際、「相手への配慮」や「会話の継続」も視野に入れることでコミュニケーションの力が高まると考えている。

また、本単元では、文字には「名称」の他に「音」があることに気付かせ、それに慣れ親しむこともねらいとしている。さらに、単元で書字の指導も一単語から徐々にスタートする。ここでは、情報を記録したり、発表のまとめをしたりといった意味ある活動として行っていきたい。

### (3) 指導に当たって

本単元では、「友達や先生のできることを紹介しよう」という単元ゴールに向かって、児童が見通しをもちながら学習に取り組んだり、様々な活動を取り入れ段階的に英語表現や語句に慣れ親しんだり、伝え合ったりしていけるように指導に当たりたい。単元末の活動は、学級全体の前で話し手が先生のできることとできないことの紹介（発表）をし、聞き手が誰かを考え、答えるクイズ形式の活動である。また、最終的には先生方へのインタビュー結果をもとに、「高浜小 teacher できることランキング」を作成し、全校に向けて幅広く先生方のことを伝えていきたいと考えている。（〇〇先生が一番できるではなく、〇〇をできる先生が一番多いというランキング）子どもたちは、先生方とは毎日顔を合わせ共に過ごしているものの、担任の先生でない限り、その先生について知っていることは意外と限られているものである。それゆえに、先生方の特技などについて知ることは子どもたちにとって大変興味深いものであると考えられる。本単元におけるインタビューやクイズ、ランキング発表などを通し、活動を楽しむだけでなく、先生方への理解を深め、より親近感をもちながら学校生活を送ってほしいと願っている。

全6時間を予定し、ウォーミングアップでは、Animals Jingle や Small Talk を取り入れ、文字の音への理解を促したり、既習表現や本時で扱う「can/can't」を積極的に使ったりすることでやり取りを楽しみたいと考えている。

第1時は、「can/can't」を使った表現や動作を表す語句との出会いの時間である。まずは、単元末に取り組む「先生クイズ」をここで紹介し、単元全体の見通しや期待感をもたせたい。そして、「We can!1」（以下省略）の p 34, 35 をもとに担任と AET のやり取りを聞きながら、どの動物のことを言っているのか推測させたり、「can/can't」の意味について理解を促したりしたい。また、p37 を見ながら動作を表す語について知らせ、それらを扱ったインプット中心のゲームをする。扱う表現や語句も多いため、第1時から聞いたり言ったりする活動やチャンツを繰り返し、児童がじっくりと慣れ親しんでいけるようにしたい。

第2時は、キーワードゲームなどアウトプット中心の簡単なゲームと p 36 のリスニング問題に取り組む。前時に学習した単語を扱い、楽しみながらアウトプットできる場や機会を十分に確保したい。また、できるかどうかの尋ね方や答え方「Can you ~ ?」「Yes, I can. /No, I can't.」の表現についても知らせ、第3時以降の活動につなげていきたい。

第3時も、アウトプットを中心にしたゲームや活動を行う。この時間は、p 37 の Activity②を

主な活動に設定し、「I can /can' t ～.」や「Can you ～ ?」「 Yes, I can./No, I can' t.」などを繰り返しアウトプットし、その表現に十分に慣れ親しめるようにしたい。また、インタビューをする際には、既習の自己紹介文や質問を付け加えながら友達との自然なやり取りが少しでも続くように支援に当たりたい。

第4時（本時）には、校内、市内外の先生方を含め多数の先生方が授業に参会される。そうした機会を生かし、既習表現や本単元で学習する「can」を使ったやり取りを主な活動に設定したいと考えた。そこで、本時のめあてを『「できる」、「できない」の表現を使って先生と会話を続けよう』と設定する。特に「続けよう」の文言について、「Reaction」と「+1Q(+1 Questionの略)」というキーワードを挙げ、めあてを達成するうえでの具体的な姿を子どもたちと共有してから、活動に取り組めるようにしたい。例えば、関わりが少なかったり、初めて出会ったりする先生には、自己紹介から会話を始めるのが適当である。そうしたシチュエーションの違いに応じて話しかけたり、相手への興味をもって反応できたりする姿を期待したい。やり取りを続けることは、子どもたちにとって大変難しいことであるので、担任と AET で子どもたちの様子をよく観察し、困っている子どもがいれば一緒に発音したり、助言を与えたりしながら、英語でのやり取りに慣れ親しんでいけるようにしたい。本時の言語活動は、前半と後半に同じ内容で計2回取り組むこととする。途中で中間評価を行い、めあてを意識して取り組もうとしているか全体の様子を確認し、賞賛するとともに、再度めあてと「Reaction」、「+1Q」のキーワードに立ち返り、少しでも会話が続きコミュニケーションの質が高まるように指導・助言したい。即興的なやり取りの経験はまだ少ないが、この授業を通し、たくさんの先生方と関わる中で「話したい」「聞き取りたい」「関わり合いたい」とコミュニケーションへの意欲や態度が高まり、外国語活動に対する新たな目標がもてる機会になればと考えている。

第5時では、「he」と「she」の導入や先生方へのインタビューで集めた情報をもとにした発表シートづくりを、第6時では発表練習と発表会（「先生クイズ」）を行い、友達の前で発表したり、やり取りをしたりしながら三人称表現への理解を深めさせたいと考えている。「he」と「she」の導入の際には、写真やイラストなど視覚的な資料を用いながら、紹介文を子どもたちにたくさん聞かせることで、「he」と「she」の意味に自然と気付くことができるように配慮したい。

また、課外として休み時間や帯学習の時間を利用して、先生方へのインタビュー、「高浜小 teacher できることランキング」づくりを予定している。出来上がったランキング表については校内廊下に掲示し、全校の子どもたちが本校の先生方や外国語活動への興味関心が高まるように、そして保護者の方にも外国語活動の内容について、理解を深めていただく機会にしたいと考えている。

## 6 単元計画 本時（4／6時間）

時	目標と主な活動	評価の観点			評価
		コ	慣	気	評価規準（方法）
1	動作を表す語や「できる」、「できない」の表現を知ると共に文字には音があることに気付く。 ・ Small Talk (What' s your name?) ・ Who is he/she? クイズ（ゴールの紹介）			○	動作を表す語や「できる」、「できない」の表現及び文字には音があることを理解している。 （行動観察、振り返りカード）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p34,35 「Let' s Play1」 動物当てクイズ</li> <li>・ ポインティングゲーム (単語)</li> <li>・ p35 「Let' s Chant②」</li> </ul>				
2	<p>動作を表す語や自分の「できる」、「できない」ことの表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Small Talk (How are you?)</li> <li>・ p35 「Let' s Chant①」</li> <li>・ キーワードゲーム</li> <li>・ p36 「Let' s Watch and Think」</li> <li>・ すごろくゲーム「できるかどうか+ Reaction」</li> </ul>		○		<p>動作を表す語や自分の「できる」、「できない」ことの表現を使って言っている。</p> <p>(行動観察, 振り返りカード)</p>
3	<p>友達に「できる」ことを尋ねたり, 答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ p35 「Let' s Chant③」</li> <li>・ p37 「Activity②」 + 1Q</li> </ul>		○		<p>友達に「できる」ことを尋ねたり, 答えたりしている。</p> <p>(行動観察, 振り返りカード)</p>
4 本 時	<p>「できる」、「できない」の表現を使って会話を続けようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ p35 「Let' s Chant③」</li> <li>・ Small Talk (Can you ~?)</li> <li>・ 「先生方へのチャレンジトーク①」</li> <li>・ 「先生方へのチャレンジトーク②」</li> </ul>		○		<p>「できる」、「できない」の表現を使って会話を続けようとしている。</p> <p>(行動観察, 振り返りカード)</p>
課 外	<p>p39 「Activity3」 先生へのインタビュー</p>				
5	<p>「he」と「she」の違いに気付くと共に, 第三者の「できる」、「できない」ことの表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ p38 「Let' s Watch and Think2」</li> <li>・ p39 「Animals Jingle」</li> <li>・ 発表シートづくり</li> <li>・ 発表練習</li> </ul>		○	○	<p>「he」と「she」の違いに気付くと共に, 第三者の「できる」、「できない」ことの表現を使って言っている。(行動観察, 振り返りカード)</p>
6	<p>第三者の「できる」、「できない」ことを進んで紹介しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ p39 「Animals Jingle」</li> <li>・ p40 「Let' s Listen3」</li> <li>・ 発表練習</li> <li>・ 「先生クイズ」 (Who is he/she?)</li> </ul>		○		<p>第三者の「できる」、「できない」ことを進んで紹介しようとしている。(行動観察, 振り返りカード)</p>

課外	・「高浜小 Teacher できることランキング」づくり ・ランキング発表・掲示				
----	---	--	--	--	--

7 本時の学習

(1) ねらい

「できる」、「できない」の表現を使って、会話を続けようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 展開

時間	学習活動	教師の支援 (○) と評価 (☆)	
		HRT	AET
3	1 あいさつをする。 2 本時の流れとめあての確認をする。 <b>めあて</b> <b>「できる」、「できない」の表現を使って、先生と会話を続けよう。</b> ・「 <u>続けよう</u> 」の具体的な姿について考える。 <input type="checkbox"/> 引き出したいキーワード 「Reaction」「+1Q」	○元気よくあいさつすることで明るい雰囲気授業を始められるようにする。 ○本時の流れとめあてを確認することで児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○「続けよう」の意味について話し合いキーワードを掲げることで、具体的な姿についてみんなで共有できるようにする。(キーワードが出てこなかった場合はデモンストレーションを見せ、児童から引き出せるようにする。)	
5	3 Review the word ・動作を表す語の復習 4 Let's chant③ 	○子どもたちと一緒に発音したり、歌ったりすることで、言い方や尋ね方などを確認したり、自信を持たせたりする。	○AETの発音に合わせて、子どもたちに復唱させることで、言い方を一緒に確認する。

10	<p>5 Small Talk</p> <p>①HRTとAETのデモンストレーションをする。</p> <p>②代表児童（ボランティア）がAETとデモンストレーションをする。</p> <p>③Small Talkポイントの確認</p> <p>④友達と会話</p>	<p>○HRTとAETで「Reaction」と「+1Q」を強調しながらデモンストレーションすることで、めあて達成のための具体的な姿を思い浮かべ、確認できるようにする。</p>	
<p><b>【会話例】</b></p> <p>A : Hello, My name is Yamamoto Yuko. What's your name?</p> <p>B : My name is Gobara Fumihiro.</p> <p>A : Nice to meet you.</p> <p>B : Nice to meet you, too.</p> <hr/> <p>A : I can play the recorder. Can you play the recorder?</p> <p>B : No, I can't.</p> <p>A : Oh, really. Can you cook?</p> <p>B : Yes, I can.</p> <p>A : Great! I like curry and rice very much. What food do you like?</p> <p>B : I like miso-ramen.</p> <hr/> <p>A : Nice ! Thank you. See you.</p> <p>B : Thank you. See you.</p>			
<p><u>Small Talk ポイント</u></p> <p>①canを使った質問は必ずする。</p> <p>②Reactionをしっかりと返す。</p> <p>③質問は、会話に慣れてきたら挑戦する。</p>			
10	<p>6 参会者の先生方と会話①</p> <p><b>先生方へのチャレンジトーク①</b></p> <p>①自己のめあてを確認する。</p> <p>②初めて出会う先生と本校の先生との会話の始まりの違いについて考える。</p> <p>③先生方と「Reaction」や「+1Q」を意識しながら会話する。</p>	<p>○「Reaction」を頑張る児童、「Reaction」と「+1Q」を頑張る児童など、児童の実態に沿って自己のめあてをもたせる。</p> <p>○「Reaction」や「+1Q」を意識してやっている児童を称賛する。（中間評価につなげる。）</p>	<p>○困っている児童の側と一緒に発音をしたり、助言をしたりする。</p>

5	7 中間評価 ①自己のめあてについての自己評価をする。 ②代表児童と AET のデモンストレーションを見て、どんなところがよかったのか全体で共有する。 ③2回目のチャレンジトークに向けてのめあてを考える。	○めあてを意識してやり取りをしようとしたか確認する。  ○代表の児童と AET のデモンストレーションを見せて、2回目はどこに気を付けてやり取りしたらよいか考えさせる。 (1回目に「Reaction」や「+1Q」を意識してやり取りしていた児童を取り上げる。)	○代表児童とデモンストレーションをする。
10	8 参会者の先生方と会話② <b>先生方へのチャレンジトーク②</b> ・先生方と「Reaction」や「+1Q」を意識しながら再度会話をする。	○困っている児童に寄り添い一緒に発音したり、助言したりする。また、「Reaction」や「+1Q」を意識してやり取りができている児童を称賛する。 <b>☆「できる」、「できない」の表現を使って会話を続けようとしている。(行動観察, 振り返りカード)</b>	
2	9 本時の振り返りをする。 10 あいさつをする。	本時のめあてをふり返り、良かった姿や頑張っていた姿をしっかりと褒め、次時への励みとなるようにする。	

### (3) 本時の評価と支援

十分満足できる児童の姿	概ね満足できる児童の姿	支援を必要とする児童への手立て
「Reaction」及び「+1Q」を意識しながら、「できる」、「できない」の表現を使って、先生と会話を続けている。	「Reaction」を意識しながら、「できる」、「できない」の表現を使って、先生と会話を続けている。	困っている児童の側で、言い方の手本を示したり、一緒に聞いたりすることで活動に安心して参加できるようにする。

### 8 授業の視点

- ・本時の授業展開は、他者との会話に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する上で効果的な指導になっていたか。

(デモンストレーション  友達会話  参会者との会話①  中間評価  参会者との会話②)

- ・中間評価を取り入れ、達成度を自己評価させたことは、次の言語活動の質を高める上で有効であったか。